

落水事故ケース 2 (テティス 4)

事故発生日時 2012年5月1日 午後11時30分
発生場所 奄美大島東方沖 沖縄一東海ヨットレース 2012 参加中
乗員 10名
落水者 K氏 49歳、ヨット歴10年 PFDはクルーセーバー自動膨張式

発生経緯

風向 N 風速 30kt、小雨、スターボードタックのクローズリーチ、艇速 8~9kt、進路 40度。
No3Jib・フルメイン。

当初デッキにはヘルムスマン(経験7年)と他2名で合計3名、キャビン内にナビゲーター。
リーフを決断、総員起こし、作業に入る。

作業者はマストに2名、コクピットに3名。作業者 Kは、リーフ終了後ドッグハウス上でブームへショックコードによるメインセールの束ね作業中、マストから2番目のショックコード取付を行おうとし、ブームをもっと寄せるように大きな声で周囲へ依頼した。

Kの依頼に応えようとヘルムスマンはメインの引き込みをし易くするため、多少切り上げ、同時に大きな声でジブを少し出してくれるように他のクルーに依頼した。(理由は不明:作業をしやすくするため、船速を落とし、艇を安定させようと考えたように思う)

次の瞬間、ジブがフルリリースされ急減速、ヒールが起き、ブームもスタボー側へ。

ドックハウス上の Kは尻餅をつくかのように後ろへバランスを崩し頭からスターボードサイドのライフライン外へ、スローモーションのように頭上を越えて水中に落ち、瞬時にライフジャケットが膨張した。

ヘルムスマンはそのまま舵を切りポートタック状態となったため、メインに風が入り、ヒールが大きくなりガンネル辺りまで水位があった。艇速 3kt 程度。

Kはテザーに引かれながらスタン・パルピットに流れ、自力でパルピットにつかまった。

手近な数名(ヘルムマンも含め)が Kの脇を抱えて艇内に引き上げた。

Kは艇内でバイタルチェックを受けたが外傷は無く、精神的に落ち着かせるため暫く艇内で休んだがほどなく復帰、ワッチに戻った。